

鳥取大学産学・地域連携推進たより



2011.秋

巻頭言

「地域の風の分析と地域の関係性づくり」

産学・地域連携機構地域貢献・生涯学習部門長
土井 康作

今、じっくり腰を落ち着けて人やものの動きを見ることが求められている。東日本大震災以来、無縁と言われた社会・生活をもう一度見直そう、自然を見直そう、科学・技術を見直そう、という風が吹いている。人と人のどうでもいい関係の見直しである。研究会や学会で、この風の分析が活発におこなわれはじめている。

本産学・地域連携推進機構は、この風を直接受ける機会が最も多い部署といえる。これまで、地域の産業・文化ニーズと大学のシーズを連結し、関係性をつくるというインターフェースとしての役割を担ってきたが、今後、機構としても地域の風を分析し、大学と地域及び地域間との関係性を一層高める役割の見直しが期待される。



未来への風

県内各地に「ものづくり道場」を開いてきた土井先生は、地域の風を知る人です。

新しい風を肌で感じるため、自然の中に身を置く土井先生を描きました。

(絵：中村宗和名誉教授)

行動憲章

私たちは、地域社会から期待される存在となります。
私たちは、「利益相反」を克服した産官学連携を推進します。
私たちは、知的付加価値を高めるための自己研鑽に努めます。
私たちは、連携の実を上げるべく、学外者に対し敬意を持って接します。
私たちは、専門領域の異なる人材の幅広い協調を計ります。
私たちは、産官学各界が互いに情報を共有するよう努めます。

①研究推進に関する事業報告

1. はりま産学交流会 7月創造例会【7月15日(金)開催：姫路商工会議所】

本学からは工学研究科社会基盤工学専攻の香川敬生教授が「常時微振動観測の応用」と題して常時微振動を構成し減衰の少ない表面波の伝搬速度を介してSは速度構成を鍵にした地下構造の推定などの講演をされ、全体の参加者は87人でした。企業と先生のフリーディスカッションの場である分散会は大震災と関連して興味のあるテーマと思われましたが、交流会の会員は製造メーカが多く事業としては取り扱いにくい内容であったため参加者が少数になりましたが、内容の濃い議論となりました。

2. はりま産学交流会 8月創造例会【8月19日(金)開催：姫路商工会議所】

本年度3回目となる「はりま産学交流会」が94名の参加者のもと開催され、本学からは工学研究科機械宇宙工学専攻の原豊准教授が「高性能・低コストの小型垂直軸風車の研究」と題して、小型風車の高性能化と低コスト化を目標に考案した、テーパー翼を特徴とする低重心垂直軸風車のコンセプトの紹介と、低重心垂直軸風車の実現を目指して現在取り組んでいる研究（模型実験と数値シミュレーション）の概要を説明しました。その後の分科会では、今後の小型風車の利活用について議論がなされました。



3. 国立大学法人5大学 イチ押しビジネス交流会【8月23日(火)開催：CIC 東京】

中国地域の5大学連携事業は、平成20年に、産学連携に関して大学間で連携していくことを5大学の学長で合意したことからスタートし、昨年度より本格的に事業をスタートしている。この中で、鳥取大学では昨年度より、東京地区での合同ビジネス交流会を提案し、本年度2回目とする「国立大学法人5大学イチ押しビジネス交流会」が5大学すべての大学の参加のもと開催された。各大学30分のイチ押し研究発表と個別相談が行われ、64名の参加者があり、4件の個別相談が行われました。



本学からは農学部の尾谷浩教授が「キノコ栽培後の廃棄物を利用した環境に優しい防菌・除菌技術」と題して発表を行い、当日個別相談はなかったものの、アンケートにおいて7件の企業が興味を示しておりアプローチを行っています。

4. 第24回 国立大学法人共同研究センター専任教員会議

【9月1日(木)、2日(金)開催：ホテルモナーク鳥取】

本会議は、旧国立大学共同研究センターに配属された専任教員間の連絡調整、情報の共有と深化を図ることを目的として、年1回開催されており、昨年度の佐賀大学続き、本年度は鳥取大学が当番校として開催されました。会議には、全国から総勢71名の参加者があり、全体会の基調講演では、「産学官連携の現状と今後の展望」と題して文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 大学技術移転推進室 井上弘亘 専門官による文部科学省関係の施策等説明された。またその後行われた分科会では、分科会I～Vまでの分野に分かれ、活発な議論が3時間以上続き、大いに情報交換・深化の場となりました。翌日は分科会報告、全体討議のあと、オブショナルツアーとして本学の乾燥地研究センターの視察等も行いました。最後まで参加した参加者は台風の影響により時間は短くなったものの、鳥取の地を満喫していただいたようでした。

5. 鳥取大学ビジネス交流会（大阪地区）

【9月8日(木)開催：大阪駅前第3ビル 鳥取県関西本部】

新しい試みとしてホームページで「聞きたい研究シーズ」のアンケート調査を行い、大阪地区での要望の高かった3件の発表を行いました。発表は、地域学部



の田川公太郎准教授が「自然エネルギー発電と節水灌漑栽培を融合した省資源型作物栽培技術パッケージ」、農学部の中島廣光教授が「斑点米カメムシ忌避物質」、工学研究科の伊藤昌毅助教が「センサネットワークによる環境モニタリングの実用化」の3つの研究シーズを紹介し、これらのシーズに対して企業等から65名の参加者が集まりました。

同時に開催した個別相談会では、「自然エネルギー発電と節水灌漑栽培」などのシーズ発表に関して、先生方と関心ある企業様との研究マッチングの相談が行われました。

6. 第7回しんきん合同ビジネス交流会【9月14日(水) 開催：コンベックス岡山】

岡山県内を中心とした約430社の中小企業、大学関連は岡山県内の大学を中心に11校がブース展示があり、来場者は2000人程度でした。本学へは事前に2社から、当日も数件の相談、売り込みがありました。本学への相談は、企業からが廃菌床の利用でシーズを求めており、尾谷教授のシーズを提供したところ、非常に喜んでおられ、自分のところでも試してみるとのことでした。また、昨年、分析に出された結果を提示していただき、尾谷教授も参考になるデータであったため、今後、継続して情報交換していくこととなりました。

7. 第8回ひろしまビジネスマッチングフェア2011【9月15日(木) 開催：広島産業会館】

本学からは鳥取大学研究シーズ集2011掲載している農学部 中島廣光教授の「斑点米カメムシ忌避物質」と工学研究科 西村亮准教授の「簡易な集光装置による太陽電池の発電電力増大」の2件を展示しました。展示シーズに対する質問はいくつかあったが、シーズ・ニーズのマッチングになるような企業対応はありませんでした。なお、空き時間を利用して会場内の出展企業や出展機関の各ブース訪問をして、鳥大研究シーズ集の広報活動と同時に企業側の新規ニーズの発掘を試みました。その結果、産学連携だけでなく産産連携や学生の就職先紹介に有益な情報が得られました。フェアの参加企業・団体数140社、参加者約2000人でした。



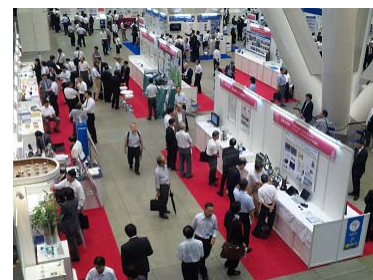
8. 鳥取大学ビジネス交流会（東京地区）【9月16日(金) 開催：CIC 東京】

本ビジネス交流会は本学研究者の研究成果を関東地域の関連企業関係者に紹介し、更なる産・学協同研究の発展を計ることを目的とするもので、平成16年度から継続されています。今般の交流会には37名の企業関係者の参加がありました。テーマとして、食糧を砂漠地域で持続的に生産する作物栽培システムの構築を目指す「自然エネルギー発電と節水灌漑栽培を融合した省資源型作物栽培技術パッケージ（地域学部 田川公太郎准教授）」、「センサーネットワーク技術を農業、気象予測、店舗管理などの高度情報化に応用する「センサーネットワークによる環境モニタリングの実用化（工学研究科 伊藤昌毅助教）」、「ファイトレメデーションの一環で海水の浸入（特に東日本大震災）による植物による塩類集積土壌の除塩技術である「植物を用いた塩類集積土壌の修復技術（農学部 山田智准教授）」でした。

9. イノベーション・ジャパン 2011

【9月21日(水)、22日(木) 開催：東京国際フォーラム】

今年度の本学のブース展示及びシーズ発表「ヒット現象の数理モデルを用いたSNSマーケティング」（石井 晃（工学研究科 教授））でした。全体的には3,000人規模で、当ブースにも多くの来場者があり、興味を示した企業も多数ありました。シーズ発表（15分）の後にも1企業が相談に来られ、のちに、石井教授とコンタクトを取られることとしました。ブース展示でのプロジェクター発表も会場全体でも2~3しかなく珍しかったこともあり、多くの方が足をとめ、興味を持って頂いた企業が多数ありました。

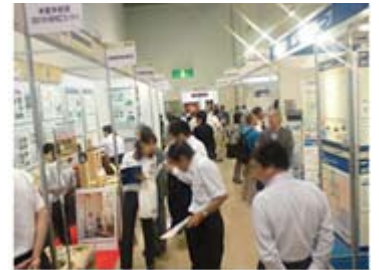


10. 第10回産学官連携推進会議【9月21日(水)、22日(木)開催：東京国際フォーラム】

東京国際フォーラム地下2F展示ホールで産学官連携功労者表彰受賞者の展示が、ロビーギャラリーでは主催機関等による展示が、またGブロック6Fでは若手研究者による科学・技術説明会が21日と22日の両日にわたって行われました。9月22日は、午前中にはBブロック5Fで全体会議（基調講演：内閣特命担当大臣による「第4期科学技術基本計画について」、と特別講演2題：江刺正善 東北大学教授による「《はやぶさ》に挑んだ人類初の往復宇宙飛行、その7年間の歩み」と児玉龍彦 東京大学教授による「スーパーコンピューターによる医薬品の設計」）がありました。午後は、産学官連携功労者の表彰に続いて、2つの分科会（「グリーンイノベーション～環境・エネルギー先進国を目指して～」と「災害からの安全性向上に役立つ科学技術」）がありました。

11. 国際フロンティア産業メッセ 2011【9月21日(水)、22日(木)開催：神戸国際展示場】

兵庫県、神戸市、NIRO、神戸商工会議所他が主催する産業メッセに鳥取大学もブースを設け、工学研究科・榎田助教の「転倒防止のための患者の体動検知と行動予測システムに関する研究」、工学研究科・伊福講師の「廃カニ殻に内包されるキチンナノファイバーの単離技術」をパネル展示説明し、工学研究科・笹間助教の「モバイルエージェント技術による人物追跡システムの開発」の模型を使い追跡システムの展示を行いました。出展ブース数は271ブース、2日間の来場者数は17,253名でした。環境・エネルギー部門の出展が最も多く、次に大学などの産学連携・支援機関部門で神戸大、大阪大、兵庫県立大、神戸高専、奈良高専、関西学院大、甲南大、神戸学院大からの出展があり、鳥大ブースでの資料配布数は約80部でした。



②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. 大山・日野川・中海学協会総会【7月4日(月)：米子商工会議所】

平成22年度総会が米子商工会議所で開催されました。会長である能勢学長のあいさつの後、昨年度実施の検定試験の優秀者である福元さんと門脇さんへ表彰状と記念品の贈呈が行われました。例年、10月、11月に開催しているセミナーは、今年は「日野川」をテーマにして、実施することとなりました。また、これまでの検定合格者のネットワーク構築等について意見交換が行われました。総会終了後、米子市在住の作家である松本薫さんによる「人に歴史あり、歴史に人あり（たたらの里 奥日野）」というテーマで物語り風の講演がありました。

2. 南部町・鳥取大学連携講演会【7月4日(月)：南部町役場天萬庁舎】

鳥取大学と南部町の連携事業の一つである講演会を、南部町役場天萬庁舎で開催しました。この講演会は行政職員をはじめ一般町民を対象にし、多くの方にエネルギーについての理解を深めていただくため開催しました。

講師は、鳥取大学中村理事（名誉教授）で、「エネルギーの変遷と自然エネルギー」というテーマで、エネルギーの基本的なことから、南部町における太陽光発電事業についての提案等についてお話がありました。約50名の出席者は、分かりやすい講演に熱心に聞き入っていました。



3. 平成22年度地域貢献支援事業等研究成果報告会【7月6日(水)：とりぎん文化会館】

平成22年度に採択された鳥取大学地域貢献支援事業と、鳥取県「知の財産」活用推進事業の研究成果報告会がとりぎん文化会館で開催されました。

報告会では、能勢学長、藤井鳥取県副知事の挨拶に続いて、「文化・芸術プロジェクト：湖山池 ずぶずぶもつとずぶずぶ」など5件の口頭発表と、「芸術をかじ



ってみませんか コミュニティアート講座」など12件のポスター展示が行われました。大学関係者や県関係者をはじめ、自治体関係者や一般市民約70名が発表に聞き入っていました。

4. トークセッション『はやぶさ』が翔けた宇宙 開催【7月10日（日）：広報センター】

JST（（独）科学技術振興機構）平成23年度「科学コミュニケーション連携推進事業」に採択された「鳥取地域における地球宇宙科学を用いた生涯学習支援ネットワーク」事業の一環として、昨年話題となった「はやぶさ」の関係者を招いたトークセッションが開催されました。（独）宇宙航空研究開発機構から吉川真准教授、会津大学から寺園淳也助教をゲストに向かえプロジェクトの裏側や、当時の思い出話を伺いました。約90名の参加者は講師の話に熱心に耳を傾け、同時に開催したクイズ大会では正解に一喜一憂していました。



5. 鳥大と東部総合事務所との意見交換会【7月12日（火）：広報センター】

今回で3回目となる鳥取県東部総合事務所と鳥取大学との意見交換会を開催しました。最初に、大学概要のビデオを視聴した後に、湖山池の浄化対策や中山間地対策等について意見交換を行いました。岡村東部総合事務所長からは、今後、本学の地域貢献支援事業を積極的に活用したい旨の意見がありました。



6. 鳥大と南部町との意見交換会【7月14日（木）：広報センター】



今年度第2回目となる南部町と鳥取大学の連携促進のための意見交換会を開催しました。南部町からは藤友副町長をはじめ担当者9名が参加し、鳥大からは林理事外、教員やコーディネーター12名が参加しました。今回の意見交換会は、4月に南部町役場で行った連携の課題について意見交換を受け、その後の進捗状況を報告したり、課題に対する具体的解決方法についての話し合いを行ったりしました。主に、古事記1300年を念頭においた再活プロジェクト、水源にかかる調査、南部町産材の利用促進等について意見交換を行い、全体会の後には、課題ごとに、南部町職員が研究室を訪問し、情報交換等を行いました。今後は、今回の意見を整理しながら、一層の連携強化を図っていきます。

7. 第1回鳥取砂丘再生会議全体会【7月14日（木）：県庁議会棟】

鳥取砂丘の保全再生や適切な利用に関する活動を行う団体及び個人で組織される平成23年度第1回鳥取砂丘再生会議全体会（西田会長：本学名誉教授）が開催されました。本年度事業実施計画や鳥取砂丘ランドデザイン行動計画に係る取組みについて討議の後、鳥取砂丘除草ボランティア募集、鳥取砂丘再生会議の取組紹介イベントや山陰海岸ジオパーク写真コンクールの実施について報告が行われました。

8. 鳥取砂丘再生会議調査・研究発表会【7月16日（土）：とりぎん文化会館】

鳥取砂丘再生会議が伝えるメッセージ ～砂丘が好き！鳥取砂丘はみんなの誇り！～ と題して発表会が開催されました。西田会長（本学名誉教授）の基調講演「山陰海岸を10倍楽しむ方法」に続いて、再生会議保全再生部会調査研究会（松原部会長：本学工学研究科教授）の研究者から鳥取砂丘の景観、砂移動、希少動植物等についての研究発表が行われました。

9. 地域イノベーション創出 2011【7月20日（水）：岡山コンベンションセンター】

中国地域産学官コラボレーション会議の参加機関や企業の関係者等約250名が一堂に集い「知の拠点からの産学創出を目指して」をテーマとしてシンポジウムが開催されました。「第4期科学技術基本計画」についての講演

やJST（独）科学技術振興機構）により整備された中国地域の「地域産学官共同研究拠点」の紹介と産業界を巻き込むための取組み等について活発な意見交換が行われました。本学からは、染色体工学研究センターの押村センター長が「とっとりバイオフロンティア」について報告いたしました。

10. 鳥取大学振興協力会中部地区交流会【7月22日（金）：セントパレス倉吉】

振興協力会中部地区交流会が中部地区産学金官連携推進連絡会と共催で開催されました。今回は、振興協力会の活動状況や中部ものづくり道場の活動の報告の後、「キノコのちから ～防菌・除菌にむけて～」と題して、本学農学部尾谷教授の講演が行われ、約40名の参加者は熱心に聞き入っていました。交流会後に懇親会も開催され、参加者一同お互いに親睦を深めました。



11. 県農林水産業産学官技術会議【7月25日（月）：農学部】

本会議は県内の農林水産業の生産現場が抱える様々な課題を解決するため、農林業団体、県機関及び本学の関係者が一堂に会して試験研究に係る役割分担調整や意見交換を行い、本県農林水産業の発展を目指す会議です。今回で5回目となる本会には、澤JA全農とっとり営農・畜産部次長他農林畜産団体、鹿田鳥取県農林水産部長をはじめ各公設試験研究機関の長及び本学からは本名、林、井藤理事他農学部教員など43名が参加し、生産現場からの新規要望課題などの対応について討議しました。

12. 鳥大と西部総合事務所との意見交換会【7月26日（火）：旧保健学科棟】

今年で2回目となる鳥取県西部総合事務所と鳥取大学との意見交換会を開催しました。約30名が参加し、西部地区における地域課題等について意見交換を行いました。主に、大山・日野川・中海学協会との連携強化、アニメを活用した地域づくり、原子力発電所事故の影響の情報提供、大山・水の研究会の今後のあり方、中海一斉清掃への参加、エキナセアの機能性評価方法等について、活発な意見交換を行いました。



13. 鳥取県関連機関及び企業等の訪問・交流会【7月28日（木）】

鳥取大学で産官学連携等に従事する（新任）教職員が、県内関連機関及び地元企業を訪問し、各機関及び企業の概要、施策等の現状を把握すること等を目的としており、今回で7回目となります。株式会社正光の鳥取工場を見学するとともに、（財）鳥取県産業振興機構、（地独）鳥取県産業技術センター、鳥取県商工労働部、鳥取大学サテライトオフィス及び放送大学を訪問しました。初めて見る施設見学後に各機関の業務説明を受け、参加者17名は今後の連携強化を図るため意見交換を行いました。

14. 東日本大震災調査報告会【7月30日（土）：広報センター】

防災・危機管理を研究している鳥大教員、県・市・町の防災に携わっている行政で組織する「とっとり防災・危機管理研究会」（松原会長：工学研究科教授）が主催した東日本大震災調査報告会が開催されました。

報告会では、6月下旬に実施した宮城県内の漁港被害調査や琴浦町が行った避難所への食事支援活動について報告が行われ、地元の防災指導員など参加した54名は熱心に聞き入っていました。



15. ものづくり指導者養成講座【7月30日（土）、31日（日）：倉吉市伯耆しあわせの郷】

中部ものづくり道場では、第2回目となる指導者養成講座を伯耆しあわせの郷を会場に開催しました。必修科目のものづくりの基礎・指導法講座のほか、4



ミニフラワーアレンジメントの作品
を手にする講師と受講生

つの選択科目（マッピングによる絵はがきづくり等）が開講され、受講生はその内2講座を選択しました。受講生は13名でした。10月16日（日）に開催される伯耆しあわせの郷まつりのなかで、受講生は実際に子どもたちに教える実地演習をする予定です。

16. 鳥大と中部総合事務所との意見交換会【8月1日（月）：広報センター】

中部総合事務所と鳥取大学の幹部職員が一堂に会して、中部管内の活性化方策について意見・情報交換を行うとともに、今後の地域貢献分野における一層の連携強化を図るため、意見交換会を開催しました。

今年で4回目となるこの会には、林鳥取大学理事、宮本中部総合事務所長等20名が出席し、昨年の提案に対する取組み状況の確認を行ったあと、本年度のテーマについて活発な意見交換が行われました。主なテーマとして、中部総合事務所からはすいかに含まれる機能性成分の分析、東郷池の水質浄化、中部地区中山間地域振興協議会等について、鳥大からは鳥大中部オフィス、中部管内における産学金官連携活動等について提案しました。

17. 産学官企業誘致連絡会【8月5日（金）：広報センター】

今回で3回目となる産学官企業誘致連絡会が、県商工労働部、鳥取大学、(財)鳥取県産業振興機構、(地独)鳥取産業技術センターから関係者が集まり開催されました。会議では、各機関が持っている企業誘致関連情報の共有化や、各機関のコーディネーターの連携強化について意見交換が行われました。

18. 日本セラミック㈱との寄附講座協定締結式【8月8日（月）：広報センター】

鳥取大学と日本セラミック株式会社との間で寄附講座（ニッセラ・センサー工学講座）の設置に関する協定の締結式が行われました。

この寄附講座は今後2年間の予定で、鳥取大学と日本セラミック株式会社（会長兼社長：谷口義晴）が共同してメムス（MEMS:Micro Electro Mechanical Systems）技術を活用したセンサー開発のための拠点を形成するとともに、メムス技術に関する高度な研究と技術者の教育を行い、地域産業の発展向上に寄与することを目的としています。

19. 鳥取大学振興協力会第2回役員会及び東部地区交流会

【8月19日（金）：広報センター】

今年度2回目となる役員会と併せて東部地区交流会が開催されました。役員の変更について審議するとともに、今後の事業計画等について説明が行われました。約60人が参加した交流会では、農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センターの前川教授が「菌類きのこ遺伝資源の発掘と活用」と題して講演しました。



20. 鳥取県地域活性化総合特区推進協議会【8月22日（月）：米子コンベンションセンター】



鳥取県では、西部地域の豊かな地域資源等の強みを組み合わせ、自然エネルギーや生命科学による新たなビジネスモデルの開発を目指して、鳥取県地域活性化総合特区構想を推進することとしています。総合特区の指定により、規制緩和や税制面の優遇措置が受けることが可能となります。総会では、鳥取県民ライフスタイルの調査結果、事業のスケジュール等が紹介され、具体的にはe—モビリティをはじめ、スマートグリッド、ライフサイエンスの活用が構想されています。9

月下旬に国に申請し、12月には国の指定が決まる予定です。鳥取大学としては、医学部を中心に参画することとしています。

21. とっとり産業フェスティバル【8月26日（金）、8月27日（土）：鳥取産業体育館】

とっとり産業フェスティバル2011 & 鳥取環境ビジネス交流会2011を開催しました。両日で約1,400

名の参加がありました。今回は、株式会社コーポレーションパールスターの新宅光男専務取締役による「産学官＋金報連携による自社ブランドの構築」と題しての基調講演や、研究ポスター発表において153枚の出展、57社の企業展示、ものづくり協力会議による「因幡・夏の手づくりまつり」、賞品付きスタンプラリー、米子高専によるロボコン、山陰発技術シーズ発表会、及びとっとりネットワークシステム合同発表会など多数のイベントを開催し、多くの来場者にお越し頂きました。また来場者のアンケートをもとに、研究発表の優秀賞10件を選定し、賞状・副賞が贈呈されました。

22. 島根原子力発電所見学【8月29日（月）】

福島第1原子力発電所の事故を受け、とっとり防災・危機管理研究会が「島根原子力発電所の実状を知ろう」と企画したところ、研究会のメンバー（鳥大・鳥取地方気象台・県・境港市・琴浦町）の26名が参加しました。最初、原子力館で発電所概要と津波対策の説明を受け、中国電力の計らいにより、普段見学コースでない2号機管理区域を見学することができました。見学をとおして、島根原子力発電所がとっている応急処置と2～3年かけて行おうとしている対応を知るとともに、今後の原子力発電について考えることができました。



23. 第6回とっとり観光振興研究会【8月31日（水）：広報センター】

県、鳥取大学、観光団体が組織している観光振興研究会を開催しました。（社）鳥取県観光連盟からはキャンペーン事業について、南部町から古事記1300年に係る取組みについて、石井教授（工学研究科）からは観光入場者モデルについて、会長である光多特任教授からは鳥取県観光の特色について、それぞれ話題提供がありました。今後、県全体の観光戦略について議論を深めていくことを申し合わせました。

24. 鳥取砂丘除草ボランティア【8月31日（水）：鳥取砂丘】

今回で7回目となります鳥取砂丘の除草を本学教職員及び学生のボランティアで行いました。教育・研究を通じて鳥取砂丘と深い関わりを持つ本学は、郷土の誇りでもある鳥取砂丘の景観を後世に残そうと、鳥取砂丘景観保全協議会主催の除草事業に参画しております。

能勢学長をはじめ約100人が参加し、夕暮れの砂丘で心地よい汗を流しました。

25. 米子市議会観光振興議員連携との意見交換会【9月1日（木）：医学部】

米子市の観光や関連産業の振興を促進し、市政の進展を図ることを目的に活動されている米子市議会観光振興議員連盟と鳥取大学が意見交換を行いました。この中で、議員連盟からは、大学との連携による地元産業界や自治体との共同研究や地域の観光振興に関する要望、鳥取大学からは、大学全体の取り組みの他、医学部の活動や生活習慣病の共同研究に関する紹介を行いました。また、鳥取県からは、皆生温泉の活性化策として、スポーツツーリズム、ヘルスツーリズム等を融合した新しい皆生の魅力発信についての提案がありました。



26. 第4回ビジネスサイエンスアカデミー【9月2日（金）：白兔会館】



鳥大・ごうぎん連携企画「第4回ビジネスサイエンスアカデミー」を開催しました。今回は、林鳥取大学理事の挨拶の後、「鳥取県における地震対策について」と題して、西田放送大学鳥取学習センター所長（本学名誉教授）の講演、「災害時の効果的な避難方法について」と題して、本学工学研究科 松見教授の講演、「得するBCPの作り方・活かし方」と題して～防災目的以上のツールにするために～と題して、セコム山陰株式会社 中谷企画広報／プロジェクト推進室長の講演が行われ約30名の参加者は熱心に聞き入っていました。

27. 第2回琴浦町内企業訪問【9月5日（月）：琴浦町内】

琴浦町における産学官連携を促進することを目的に、鳥取大学、鳥取県、琴浦町商工会、琴浦町役場が合同で企業訪問を行いました。町内6企業を2班に分かれて訪問する中で、農商工連携では現在各種の事業が行われており、協力可能な内容があれば積極的に取り組みたい、先々のことを考えると異業種への参入を行いたいが、異業種参入もあまり成功例は聞かないし、何に組み込んだら良いのかわからないので、なかなか踏み切れないなどの要望や意見がありました。



28. 明治大学地域連携「外国人留学生日本体験プログラム」【9月5日（月）～7日（水）：鳥取市鹿野町】

明治大学・鳥取大学・鳥取県の連携事業の一環として、明治大学政治経済学部の飯田年穂教授、源教授の引率のもと、留学生30名と本学留学生12名が日本体験プログラムと交流会・親睦会に参加しました。鳥取市鹿野町にて町内散策、バーベキュー、農業体験プログラム（鬼入道の農業体験ツアー）の実施や、伝統工芸（藍染、紙すき）体験とそば打ち体験を通じて交流を行いました。

29. 第1回食鹿^{しよつかーもみじたい}隊開発「鹿肉まん」試食会【9月6日（火）：地域学部】

本学の調理クラブの有志らが「食鹿^{しよつかーもみじたい}隊」を結成し、鹿肉まんの開発を進めており、その第1回目の試食会が地域学部棟で開催されました。4種類の肉まんごとに、学生が開発したコンセプトや味付け特徴等を紹介し、能勢学長を始めとする本学関係者等が試食を行いました。今後は、今回の試食会で出た意見を参考にし、道の駅等で気軽に味わっていただけるような商品を目指し、開発を続けるということです。

30. 中部地区産学金官連携推進連絡会事務局会・農商工連携ワーキンググループ会議【9月7日（水）：県中部総合事務所会議室】

中部地区における産学官を推進し、地域資源・産物の高付加価値化及び新産業展開のための情報交換やビジネスマッチングなど地域の産業活性化を目的に中部地区産学金官連携推進連絡会事務局会と農商工連携ワーキンググループが開催されました。農商工連携ワーキンググループ会議では、各農商工案件それぞれに支援チームを設けることや新規案件について協議をしました。事務局会では、総会など今後の連絡会の活性化について協議を行いました。

31. 第7回鳥取大学工学研究科西部地区出前技術講演会【9月9日（金）：医学部アレスコ棟】

約40名が出席した工学研究科による西部地区出前講演会では、佐藤准教授による「熱放射計測による機械加工温度の測定事例」、吉留教授による「動画圧縮符号化技術」、河田教授による「タンパク質の形の変化による神経変性病とその診断・治療材料の開発研究」、井上助教によるソフトウェア信頼性評価技術とその高精度化について講演しました。出席者からは、それぞれの講演について、実験の方式などの質問が出されました。講演後には、振興協力会による交流会を医学部学生会館で開催し、情報交換を行いました。



32. 月とウサギと望遠鏡～手作り望遠鏡で月面観察～【9月10日（土）：さじアストロパーク】

JST（（独）科学技術振興機構）平成23年度「科学コミュニケーション連携推進事業」に採択された「鳥取地域における地球宇宙科学を用いた生涯学習支援ネットワーク」事業の一環として、手作り望遠鏡キットを用いた工作教室と月面観察会が開催されました。約70名の参加者は、連携機関である鳥取市さじアストロパークの職員から望遠鏡の仕組みのレクチャーを受けた後、望遠鏡の工作に取り組みました。観察会では自分で作った望遠鏡で実際に月を観察し歓声が上がっていました。

33. 全国コーディネーター活動ネットワーク第2回中国四国地域会議

【9月12日（月）、13日（火）：広報センター】

平成23年度文部科学省産学官連携支援事業の一環として、中四国国立大学法人大学に在籍するコーディネーターをはじめ、文部科学省、経済産業省、県内の産学官連携関係者、本学コーディネーターおよび教員約50名が参加して開催されました。幹事大学代表として井藤理事のあいさつに続き、文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長池田貴城氏、経済産業省産業技術環境局大学連携推進課長進藤秀夫氏による施策説明、(株)日経BP医療局主任編集委員宮田満氏による講演「産学官連携の実情とこれから」などが行われました。その後、参加者が5グループに分かれ、1日目には「求められるコーディネーター像」、2日目には「コーディネーターの継承問題」について議論しました。コーディネーターの役割がますます重要になる中、その課題について充実した議論が交わされました。

34. とっとりグランマ倶楽部第4期 成果報告会・修了式【9月17日（土）：広報センター】

今年度で4期目となるとっとりグランマ倶楽部の最終講義と受講生4グループ（24名）による成果報告会が開催されました。最終講義では「心の健康を保つための、ストレスとの付き合い方」と題して、医学部保健学科 吉岡教授による講義を開催し、受講生は熱心に聞き入っていました。成果報告会では、「芸術と健康～映画～」、「癒しの森が心とからだに与えるもの」、「鳥取の夏野菜の食べ方・鳥取の特産としてイギスを紹介しよう」、「鳥取県産ブロッコリーペースト活用による地域貢献～被災地野菜不足を補おう～」というテーマに基づき、各グループが研究成果を発表しました。



35. 行政職員防災セミナー「東日本大震災から学ぶこと」

【9月22日（木）：県西部総合事務所講堂】

とっとり防災・危機管理研究会と県西部総合事務所主催の行政職員防災セミナー「東日本大震災から学ぶこと」を開催しました。林西部総合事務所長の挨拶の後、「東日本大震災の津波被害と防災について」と題して、本学工学研究科 松原教授の講演、「放射線を目に見える形に」と題して、本学医学系研究科 栗政准教授の講演が行われ、約120名の参加者は熱心に聞き入っていました。

36. 日野川源流探訪【9月23日（金）：日南町】

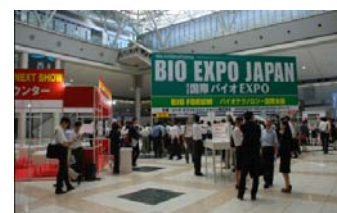
本年度、日野川の源流と流域を守る会（会長：能勢学長）がこれまでの日野川流域の自然を守る様々な活動が認められ『第13回日本水大賞厚生労働大臣賞』を受賞しました。これを記念した日野川源流を探訪するツアーと源流の碑の建立が行われ、能勢学長、増原日南町長をはじめ約70名が参加しました。能勢学長の挨拶のあと序幕式が行われ、自然環境の説明やクイズ大会が行われました。



③知的財産管理運用に関する事業

1. 国際バイオアカデミックフォーラム【6月29日（水）～7月1日（金）開催：東京ビックサイト】

ライフサイエンス研究機器メーカーや試薬メーカー、バイオベンチャー、研究機関、国・自治体など650社が、先端バイオ技術を一堂に出展し、製品・技術の導入を目的に来場する研究者と出展社との間で、技術相談や商談が活発に行われる【アジア最大の研究者のためのバイオ展】に河田康志 教授（工学研究科）、三浦典正 准教授（医学部）および有馬二郎 准教授（農学部）の3名が出展し、特許技術の発表を行いました。



2. 山陰(鳥取・島根)発新技術説明会 【7月8日(金) 開催:JST東京本部(市ヶ谷)】

鳥取大学、島根大学および山陰の公設試験場から未公開特許を中心とした技術シーズを発表する、「山陰(鳥取・島根)発 新技術説明会」を、7月8日(金)に、JST東京本部のJSTホールで開催しました。このイベントは、JSTの事業により、平成19年度から毎年1回開催してきたもので、山陰地域の大学・公設研究機関が連携して開催するのは、今回で第5回目です。鳥取大学からは、工学研究科 西村正治 教授、乾燥地研究センター 井上光弘 教授、農学部 猪迫耕二 准教授、医学系研究科 栗政明弘 准教授が発表しました。当日の来場者数は、98人(延べ543人)と大盛況でした。各発表の終了後には、研究者と企業担当者との名刺交換や、コーディネーターも交えての技術相談が行われるなど、共同研究等への発展が今後期待されます。

3. CIC東京新技術説明会 【7月28日(木) 開催:キャンパス・イノベーションセンター東京】

キャンパス・イノベーションセンター東京(東京都港区)にリエゾンオフィスを有する12大学が中心になり、未公開出願を含む17件のライセンス可能な特許内容を発表する新技術説明会を開催しました。A会場「電気・電子/化学/材料」とB会場「情報/機械/医療・バイオ」に分かれて、本学から木下健太郎 助教(工学研究科)と三浦典正 准教授(医学部)の2名の未公開技術を発表するとともに来場者との個別面談も行われました。

4. 山陰発技術シーズ発表会 in とっとり 2011 【8月26日(金) 開催:鳥取産業体育館】

8月26日(金)・27日(土)の二日間にわたって鳥取産業体育館において開催された「とっとり産業フェスティバル2011」の中での催しとして、「とっとり産業フェスティバル実行委員会」と「中国地域産学官連携コンソーシアム(さんさんコンソ)」が主催するシーズ発表会「山陰発技術シーズ発表会 in とっとり2011」を、8月26日(金)に開催しました。鳥取大学からは、乾燥地研究センター 井上光弘 教授、農学部 猪迫耕二 准教授、医学部附属病院 中山敏 准教授の3名が発表しました。当日は、87名の方にご来場いただき、発表者への技術相談もありました。本発表会をきっかけとした共同研究等への発展が今後期待されます。

5. さんさんコンソ第6回外部評価委員会 【9月29日(木) 開催:ホテルグランヴィア岡山】

「中国地域産学官連携コンソーシアム(さんさんコンソ)」の第6回目の外部評価委員会が9月29日(木)に、ホテルグランヴィア岡山で開催されました。本委員会では、さんさんコンソ事務局から平成23年度上期の活動報告を中心に報告すると共に、さんさんコンソの課題、平成23年度下期の事業計画、自立化形態の案などを説明しました。会議では、さんさんコンソの自立化・将来展望などを中心に活発な討論がなされ、外部評価委員からは今後の展開に繋がる貴重なアドバイスや指摘を頂きました。

6. 知的財産インターンシップ実習 【8月～9月 開催:鳥取大学、青山特許事務所(大阪市)】

平成23年度の鳥取大学知的財産インターンシップ実習を、8月から9月にかけて実施しました。この実習は、毎年夏休みの時期に合わせて、鳥取大学で実施する発明実習のコースと、青山特許事務所(大阪市)における知的財産実務実習のコースを実施しているもので、今年度は、3名の学生(工学部3年生1名、地域学部3年生1名、農学部1年生1名)が参加しました。鳥取大学での発明実習の成果品は、各内容に合わせて、文部科学省等が主催する「パテントコンテスト」や、鳥取県発明協会主催の「鳥取県発明くふう展」に出品しました。また、青山特許事務所における特許実務実習には、学生と共に知的財産管理運用部門からも教員1名が実習に参加し、弁理士事務所における知的財産管理の実務を学びました。

今後の予定

鳥取大学サイエンス・アカデミー in Yonago/大山・日野川・中海学協会セミナー

【10月、11月(第2・4土曜日):医学部 旧保健学科棟】

第1回 10月8日(土)	
「大山・日野川」のおいしい水	未来に向けた日野川流域憲章について
鳥取大学医学部 講師 祝部大輔	前米子市水道事業管理者 田中通雄
第2回 10月22日(土)	
源流域における河川地形の特徴と洪水の発生メカニズム	ラフティングをとおして日野川に親しむ
鳥取大学農学部 准教授 芳賀弘和	Doスポーツ 会長 森田勝彦
第3回 11月12日(土)	
鳥取県西部地震と山陰地域の地震	西部地震の復興と地域の再生
鳥取大学大学院工学研究科 教授 香川敬生	日野ボランティア・ネットワーク 事務局 山下弘彦
第4回 11月26日(土)	
鉄の誕生と製鉄の歴史	奥日野のたたら歴史と生活
産学・地域連携推進機構 コーディネーター 岡本尚機	有限会社地域未来 代表取締役 すぎはらみきを

とっとり駅南教室【毎月第1土曜日:鳥取市立中央図書館】

10月1日(土)	
鳥取大学地域学部 教授 石谷孝二	「彫刻の話し(仮)」
11月5日(土)	
鳥取大学地域学部 教授 山根俊喜	「通信簿史考ー通信簿から学校の歴史を読み解く」
12月3日(土)	
鳥取大学工学研究科 助教 薄井洋行	「電池の高性能化による電気自動車用の普及」

第2回 鳥取商工会議所工業部会員による鳥取大学訪問

【10月12日(水)14:00～:広報センターC室】

昨年に引き続き、鳥取商工会議所工業部会員の方々が本学を訪れ、工学研究科研究室見学、技術シーズ紹介、個別相談会にご参加いただきます。

中国地域さんさんコンソ 新技術説明会【11月25日 :JST東京本部(市ヶ谷)】

「中国地域産学官連携コンソーシアム(さんさんコンソ)」の正会員である大学・高専等から未公開特許を中心とした技術シーズを発表する、「中国地域さんさんコンソ 新技術説明会」を、平成23年11月25日(金)に、JST東京本部のJSTホールで開催します。今年度は、東日本大震災復興支援を目的とした「資源循環活用、省エネ・新エネ、電気、情報、防災、医薬」の分野をテーマとした新技術を発表します。鳥取大学からは、大学院工学研究科 西村強 教授、李仕剛 教授の2名が発表します。

発行日:平成23年10月1日<第26号>
所在地:〒680-8550 鳥取市湖山町南4-101
TEL:0857-31-5609 Fax:0857-31-5571

連絡先:鳥取大学産学・地域連携推進機構
ホームページ: <http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/>
E-mail: ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp